

海の道むなかた館

福永晴帆日本画展

— 宗像大社の文化財保存修復にむけて —

平成二十六年 六月二日(火) — 二十九日(日)

開館時間／九時～十八時 休館日／月曜休館

海の道むなかた館 常設展示室

宗像市深田五八八番地 TEL / 0940-62-2600

◎入場無料

宗像大社の儀式殿襖絵「桜図」を描いた日本画家・福永晴帆について、福岡教育大学日本画研究室による研究成果を展示します。晴帆の掛軸作品に加え、大学院生による模写作品や最新デジタル技術を使用した襖絵の再現文化財（レプリカ）を展示し、今後の文化財保存修復計画や近隣の学校を中心とした未来の教育について提案します。



◎主催／福岡教育大学日本画研究室（松久准教授）・海の道むなかた館

◎後援／宗像市・宗像市教育委員会・福岡教育大学



福永晴帆日本画展

— 宗像大社の文化財保存修復にむけて —

福永晴帆（一八八三—一九六二）は山口県出身の日本画家で、同郷の伊藤博文との交流を深め、皇族や政治家、財界人の庇護のもと意欲的に制作をおこないました。帝展等の団体を嫌い、保守的な日本画壇における地位の確立に執着せず、独自の世界を表現する姿勢を貫いた孤高の画家です。二十代後半には、五年の長期にわたって渡欧し、イギリスやフランスで水彩画や油彩画を学びました。帰国後は、大和絵などの日本の伝統的な絵画にも関心を深めて古典技法の修得に励むとともに、欧州で培われた芸術感覚を融合した独自の日本画を制作しました。また、もう一方で古墨や古硯の収集にも努め、漢詩や古典の知識を反映した水墨画（南画）もよく描きました。晴帆の作品としては、京都御室仁和寺白書院の襖絵（一九三七年）が有名です。ここでは松や波濤を雄大に描くと同時に、別の部屋には繊細な藤の花を描くなど、日本画家としての技と精神が存分に発揮されていますが、一般公開されているものは他に無く、時代に埋もれつつあるのが現状です。

没後五十年が過ぎ、作家や作品に関する資料が失われるなか、日本の主たる寺社に描かれたとされる名画を再評価し、修復・保存しようとする気運が高まっています。福岡教育大学 日本画研究室では、宗像大社の協力を得て、美術史上の評価が定まっていない福永晴帆とその作品について、客観的な評価の確立を目的とした作家・作品研究を進め、教育大学で美術を学ぶ学生とともに、視覚的効果の高い模写による実証的研究を通して晴帆の画論と芸術性を検証しました。

（福岡教育大学 松久公嗣）



福永 晴帆
Fukunaga Seihan

画歴

- 1883（明治16）山口県厚狭郡に生まれる
- 1908（明治41）伊藤博文に随行して朝鮮・北京・上海を巡遊
- 1910（明治43）香港より欧州に渡り、英国ヴィクトリア美術学校に学ぶ
- 1915（大正4）帰国 東京下谷に移る
- 1922（大正11）帝展出品
- 1924（大正13）赤坂御所で拝謁、花鳥作品が買い上げられる
- 1934（昭和9）靖国神社勅使の間の襖絵完成（現 宗像大社襖絵）
- 1937（昭和12）京都仁和寺の襖絵を制作
- 1961（昭和36）老衰のため鎌倉の自宅にて死去



《菊》



《紅葉狩》



《宮廷図》

海の道むなかた館常設展示室

宗像市深田 588 番地（宗像大社ヨコ）

TEL:0940-62-2600

FAX:0940-62-2601

<http://searoad.city.munakata.lg.jp/>



アクセス

【車】

- ・九州自動車道若宮インターから約 20 分
- ・古賀インターから約 25 分

【公共交通機関】

- ・JR 東郷駅前バス停より宗像大社経由・神湊波止場または光陽 6 丁目行きバス（20 分）宗像大社前下車

本展覧会は、以下の科研費研究成果の一部です。
研究課題名：福永晴帆研究—客観的評価の確立と教育学研究への展開—
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究（C））